

# 仕合わせの和

第247号

令和4年10.1  
(毎月1日発行)

老いを生きるために

住職 谷川寛俊

今に始まった事ではないが、地方の過疎化はどこも深刻な問題になっています。少子化に加え、若者の都会への流出による人口減少で、毎月一日に発行されている市の広報を見て改めて驚きました。

一昔前の市の人口は5万人にもう少して届くかと言う時があったと思っていたのに、今月(9月)の広報ではあと2百人弱で4万人を切ろうとしている状況です。人口減少で大型の商業施設の撤退、特にコンビニエンスストアの閉店があちこちに見られます。逆に大手の薬局が増え、果たして人口の少ない魚津でやっていけるのだろうかと思計な心配をしています。

一方高齢者の一人暮らしも、どんどん増えています。

私達が毎日、月参りに伺うお宅にも高齢で一人住まいの方が、何軒もあります。子供さんがいるのだけれど、核家族化が進み、月に一度、或いは二、三か月に一度親の顔を見に訪れるというケースをよく見かけます。

親の方もまだまだ元気で、よほどの事が無い限り気楽で良いと仰っている方もおられます。

そうかと思えば、お父さんが亡くなられてからお母さんを一人にしておけないと息子さんが実家に戻り、奥さんと自分の子供とは別所帯で、親の面倒を見ながら、毎朝、デーサービスに送り出し、その後会社に出掛けられるという誠に親孝行のお手本のような方もいます。(奥さんと子供さんも毎日おばあちゃんの顔を見に来られます)

この方は、二年前に父親を亡くされましたが、ご両親がお元気なころは、ご夫婦で何十年も毎月一日朝五時のお参りは欠かさず参詣されておられました。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

昔は家の中心に長老がいて、その周りに老いに寄り添う家族がいました。だから安心して歳がとれ、今のような孤独感はなかったかもしれせん。

私たちが人間の命は、不思議な縁の中で「授かった命」です。そして授かった命と自覚することで、人は他者への感謝や慈愛の心を持つことが出来ます。老いた人が、生き生きと過ごすことが出来る居場所が少なくなっています。親子の関係も社会の人間関係も希薄になっているのです。しかし、先述の親孝行な若者が全くいないわけではありません。

今こそ私達寺院と檀家の皆さんとの絆を強くする為の方法を考えなければならぬと思っています。どうぞ遠慮なく良い智慧をお借し下さい。

お待ち申しております。

